

今年4月に本校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語、数学、英語の3教科のテストと同時に、家庭生活、学校生活に関する調査も実施されています。生活習慣や学習の様子など、本校の3年生の状況をお伝えします。

総合結果（国語・数学・英語）

国語、数学、英語ともに全国平均より少し低めもしくは全国平均と同程度の結果でした。どの教科も正答率が全国平均を上回ったのは知識・技能を問う問題が多く、思考・判断・表現の問題では正答率が全国平均を下回るものが散見される傾向がありました。問題形式では、選択式の問題で全国平均を超える正答率を示すものが多い一方、記述式の問題では全国平均を下回る正答率のものが多く見受けられ、途中であきらめ無回答の生徒が全国よりも多い問題もありました。特に文章を読んで要旨を把握したり、自分の考えを述べたりする問題の正答率が低く、読むことに課題がある生徒が多いようです。読書時間も全国平均より低く、本が好きな生徒の割合も低い数字を示しています。読解力・情報処理能力は全教科の基礎であり、社会生活においても重要なスキルです。本や新聞、文章題などを通して新たな世界・情報・考え方に触れるで、楽しみながら読解力も上げてほしいと思います。

国語科より

(全国平均と比べて)

- | | |
|----------------------------|--------|
| ○意見と根拠など情報と情報との関係について理解する | + 3. 2 |
| ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む | + 3. 1 |
| ○古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉える | - 8. 8 |
| ○文章の叙述を基に要旨を把握する | - 7. 1 |

本校の特徴としては、自分の考えが伝わる文章を書くことにおいて強みが見られます。また、古典の基礎知識である歴史的仮名遣いに一定の成果が見られました。授業で復習も込めて取り組んだ内容が力になっています。一方で、文章を読み取る問題が大きく平均値を下回っています。日々の授業から本文を読み、何かを考えさせる。その考えたことをアウトプットする力を身につけさせる必要があります。今後、授業においては文章を読み込む。また物語だけでなく、報道文にも触れ、語感の違いを感じ、語彙を豊かにして社会で活躍するうえで、困らないような知識を身につけさせたいと考えています。

数学科より

(全国平均と比べて)

- | | |
|--|---------|
| ○累積度数の意味を理解しているかどうかをみる | + 3. 6 |
| ○反比例の意味を理解しているかどうかをみる | + 3. 3 |
| ○ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる | - 8. 7 |
| ○目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる | - 10. 3 |

全体的に見て、どの領域も全国平均、全市平均よりもマイナスになっています。特に記述式の正答率がかなり低く、さらに無回答率も高くなっています。よって、普段の授業から、要点をおさえて他者に説明させる場面をつくり、無回答率をなくしていくよう取り組んでいきたいです。

英語科より

(全国平均と比べて)

- 道案内の場面における会話を聞き、の内容を最も適切に表している絵を選択する + 5.5
- 図書館について書かれた英文を読み、その概要として、最も適切なものを選択する + 3.3
- 水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する - 6.6
- ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する - 3.3

英語で書かれた文章の読解において強みと弱みが見られました。例えば、「英文の概要を捉える」という面に関しては、学校の定期考査でも正答率が非常に高いです。一方で、「書き手の伝えたいことを選択したり、表現する」という問題に関しては課題が見られ、普段の授業で扱っている教科書の本文の内容を簡潔にまとめたりする活動等を取り入れていきたいと考えています。

生徒質問紙から①



「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に「当てはまる」と答えた生徒が全国平均よりも 2.5 ポイント高く、「当てはまらない」と答えた生徒は 0 人でした。ただ、「地域や社会のために何かしてみたいと思いますか」という質問に「当てはまる」または「どちらかと言えば当てはまる」と答えた生徒は全国平均よりも 6.0 ポイント低く、地域や社会とつながる活動の不足が考えられ、今後充足の機会が望まれます。

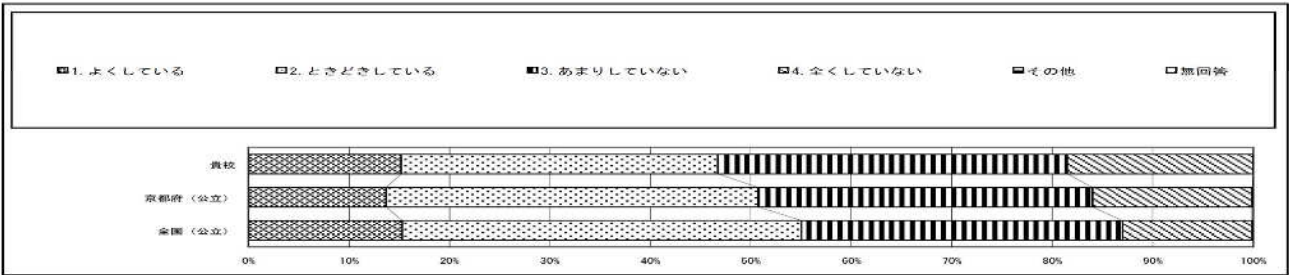
生徒質問紙から②



「1、2 年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」という質問に「週 3 回以上」と答えた生徒は 82%で、全国平均を 20.9 ポイント上回りました。ただ、「学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という質問に「当てはまる」または「どちらかと言えば当てはまる」と答えた生徒は 81.5%で、全国平均よりも 11.8 ポイント低く、今後はより効果的な活用方法を研鑽し、工夫していく必要があります。

生徒質問紙から③

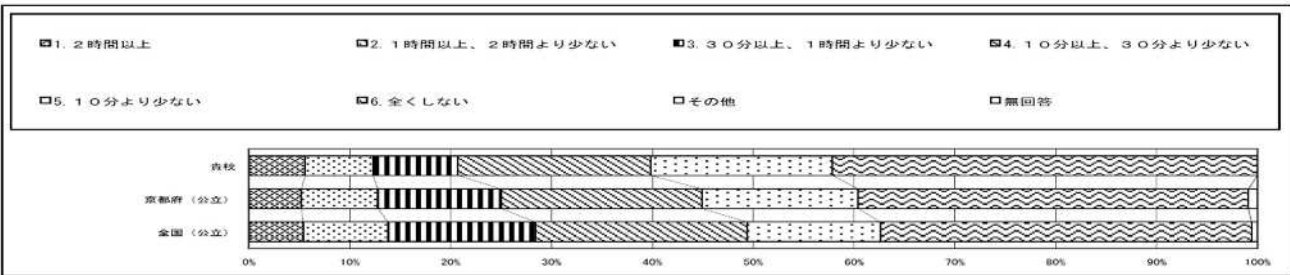
質問番号	質問事項										
(1 6)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	15.2	31.5	34.8	18.5						0.0	0.0
京都府（公立）	13.7	37.0	33.2	15.9						0.0	0.1
全国（公立）	15.3	39.7	31.9	12.9						0.0	0.1



「家で自分で計画を立てて学習していますか」という質問に対し、「よくしている」または「ときどきしている」と答えた生徒は 46.7%で全国平均より 8.3 ポイント低くなっています。学校では定期テスト 2 週間前にはテスト勉強計画表を用い、学習計画を立てる時間を設定しています。限られた時間で何をしなければならないかを To-do リスト形式で書き出し、自分のスケジュールに合わせて時間配分をし、効果的に時間を使う練習をしています。生徒のみなさんは、普段の学習についても自分で計画とスケジュール管理を行い、オンとオフをはっきりさせることで、漫然と過ごしすぎて後で後悔することのないようにしてほしいと思います。特に 3 年生は進路決定の時期が間近にせまっています。残りの時間を認識し、いつまでに何をしなければならないか書き出し、先を見通して時間配分をし、しっかり実行してってください。何も進んでいないと焦りが募るだけです。まず学校の授業に集中して取り組み、不明な点は先生にたずねて基礎をきっちり身に着けてください。そして毎日コツコツと家庭学習を進めましょう。志望校が絞れてきたり、決まれば過去の問題 1 年分に目を通し、入試日までどのような力をつけることが必要かを知り、求められている力をつけることを目標に、やらなければならないことを明確にして自分で学習計画を立てましょう。強い意志で実行し、希望の進路を実現してください。

生徒質問紙から④

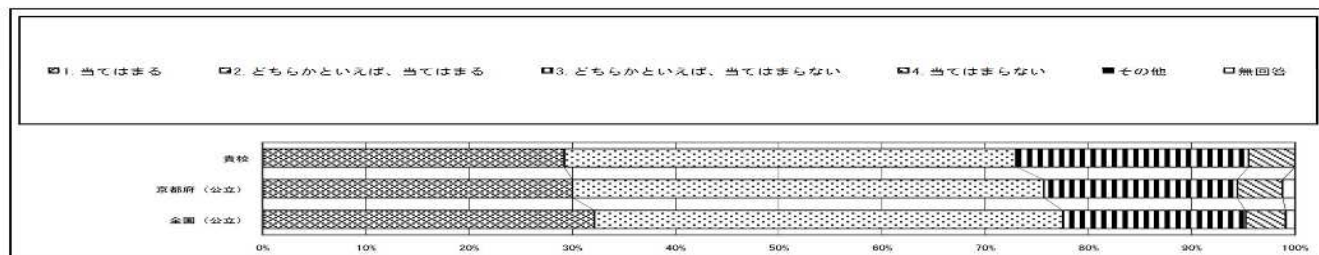
質問番号	質問事項										
(20)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしめますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	5.6	6.7	8.4	19.1	18.0	42.1				0.0	0.0
京都府（公立）	5.2	7.6	12.2	19.9	15.5	38.7				0.0	0.9
全国（公立）	5.4	8.4	14.6	21.0	13.2	36.8				0.0	0.6



「学校の授業時間以外に普段 1 日どれくらいの時間読書をしめますか」という質問に対し「30 分以上」と答えた生徒の割合は 20.7%で全国平均より 7.7 ポイント低く、逆に 10 分以下（学校の朝読書の時間以外は読んでいない）の生徒が 60.1%で全国平均よりも 10.1 ポイント高くなっており、読書量が足りていない生徒が大変多いことが分かります。「読書は好きですか」という質問に「当てはまる」または「どちらかと言えば当てはまる」と答えた生徒も全国平均を 7.5 ポイント下回っています。スマートフォンやゲームのあるご家庭はそれらを使って過ごす時間が長すぎ、読書や学習の時間を圧迫してしまっていないか今一度ご家族で振り返ってみてください。家庭での約束をきっちり守ることで読書や学習等の時間を生み出せると考えられます。

生徒質問紙から⑤

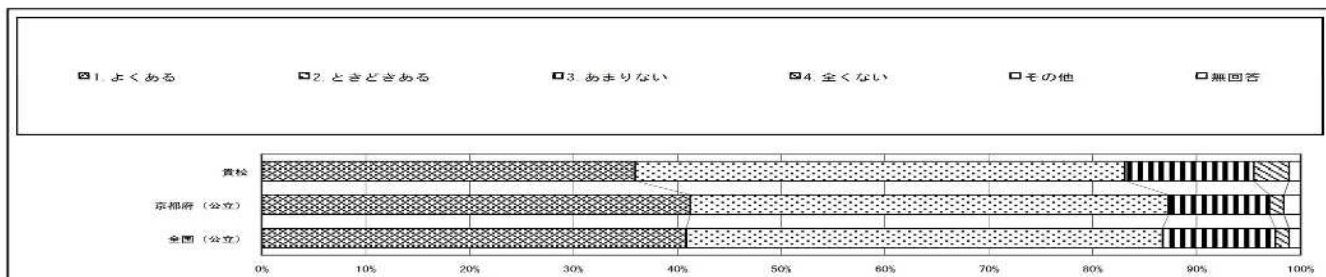
質問番号	質問事項										
(13)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	29.2	43.8	22.5	4.5						0.0	0.0
京都府（公立）	30.0	45.6	18.7	4.4						0.0	1.2
全国（公立）	32.2	45.4	17.7	3.9						0.0	0.9



「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問に対して「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒は73%で、全国平均を4.6ポイント下回っています。また、「人が困っているときは進んで助けていますか」の質問に「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒は83.1%で、全国平均を5.0ポイント下回っています。他者の視点に立って意見に耳を傾け自分の考えを深めたり、他者に目を向けその状況を想像し助け合う力を皆が持つことは、自分を含め多様な人々が共生し、一人ひとりがより幸せに暮らせる社会の実現につながります。学校では、各教科や道徳、総合的な学習その他の教育活動の中で、グループ活動などの意見交流の機会をより充実をさせていきたいと考えています。ご家庭でも時には、社会に目を向けた話題で、多様な視点を意識して会話を楽しんでいただければと思います。

生徒質問紙から⑥

質問番号	質問事項										
(15)	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	36.0	47.2	12.4	3.4						0.0	1.1
京都府（公立）	41.3	46.1	9.7	1.4						0.0	1.6
全国（公立）	40.9	45.9	10.9	1.3						0.0	1.1



「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という質問に対し、「よくある」または「ときどきある」と答えた生徒の割合が全国平均より3.6ポイント低く、「あまりない」「全くない」と答えた生徒が全国平均よりも3.6ポイント高くなっています。関連して、「自分にはよいところがありますか」という質問にも同様に「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒は81.4%で全国平均を4.2ポイント下回り、「どちらかといえば当てはまらない」または「当てはまらない」と答えた生徒は18.6%で全国平均を3.6ポイント上回っています。「友達関係に満足していますか」という質問に対しても同様の回答となっています。さらに「将来の夢や目標をもっていますか」という質問に対しても同様の結果が見られます。人と何かを協働したり多くの経験をする中で、自己を見出し周囲にも認められることが自己肯定感、幸福感にもつながります。ひいてはそれが将来展望を抱き、前向きに生きることの原動力ともなりえます。感染症対策や長時間のスマートフォンやゲームで不足してしまったことも少なからずあると考えられます。学校では今年度多くの活動がほぼコロナ禍以前同様に行われています。普段の生活や取り組みを通して、より生徒一人ひとりのよい所を発見し、伸ばしていきたいと考えております。ご家庭においても、お子様のがんばりやよい所、小さな成長を発見し温かい言葉かけをしていただけると幸いです。